

EAJ

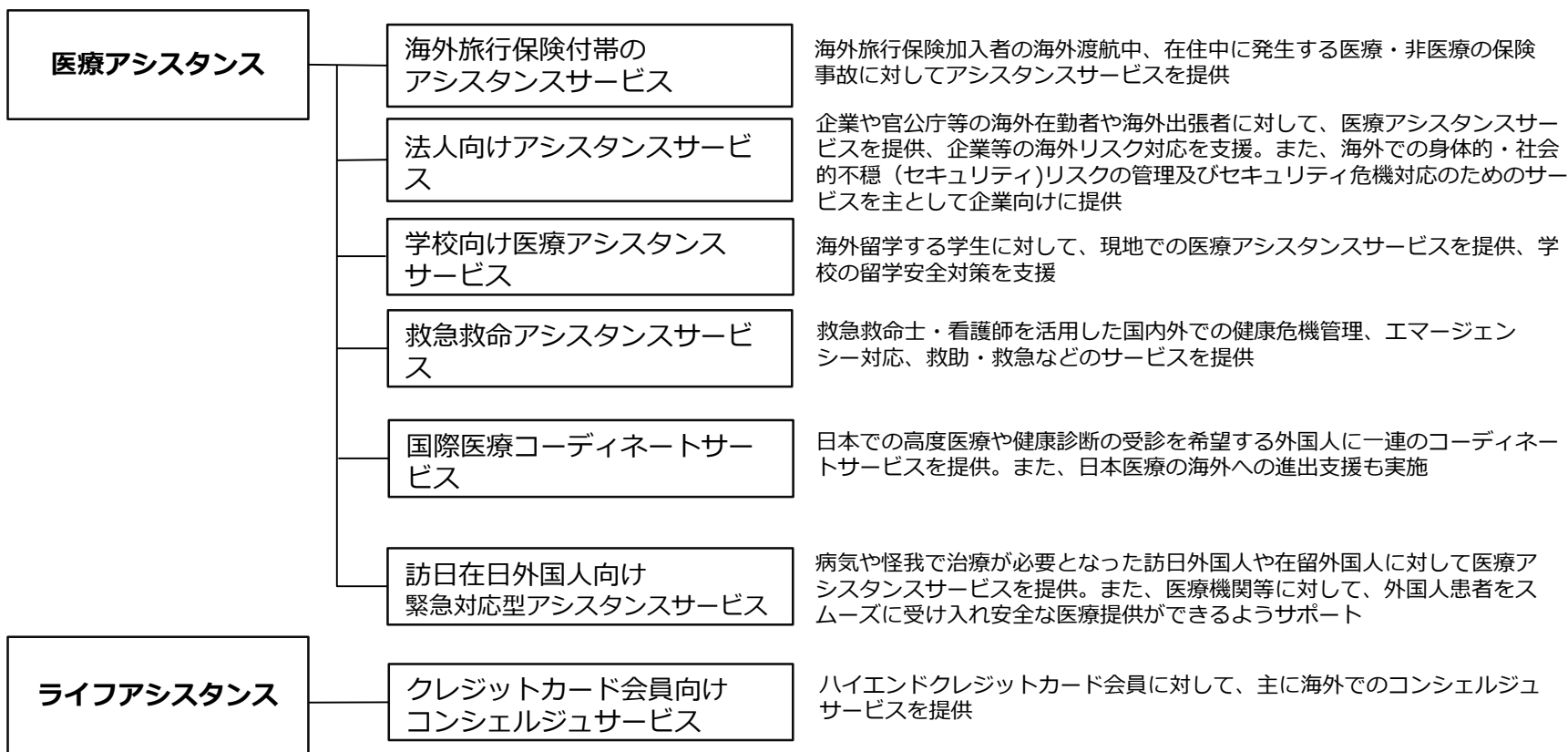
2019年12月期 業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
Emergency Assistance Japan (EAJ)

当社事業

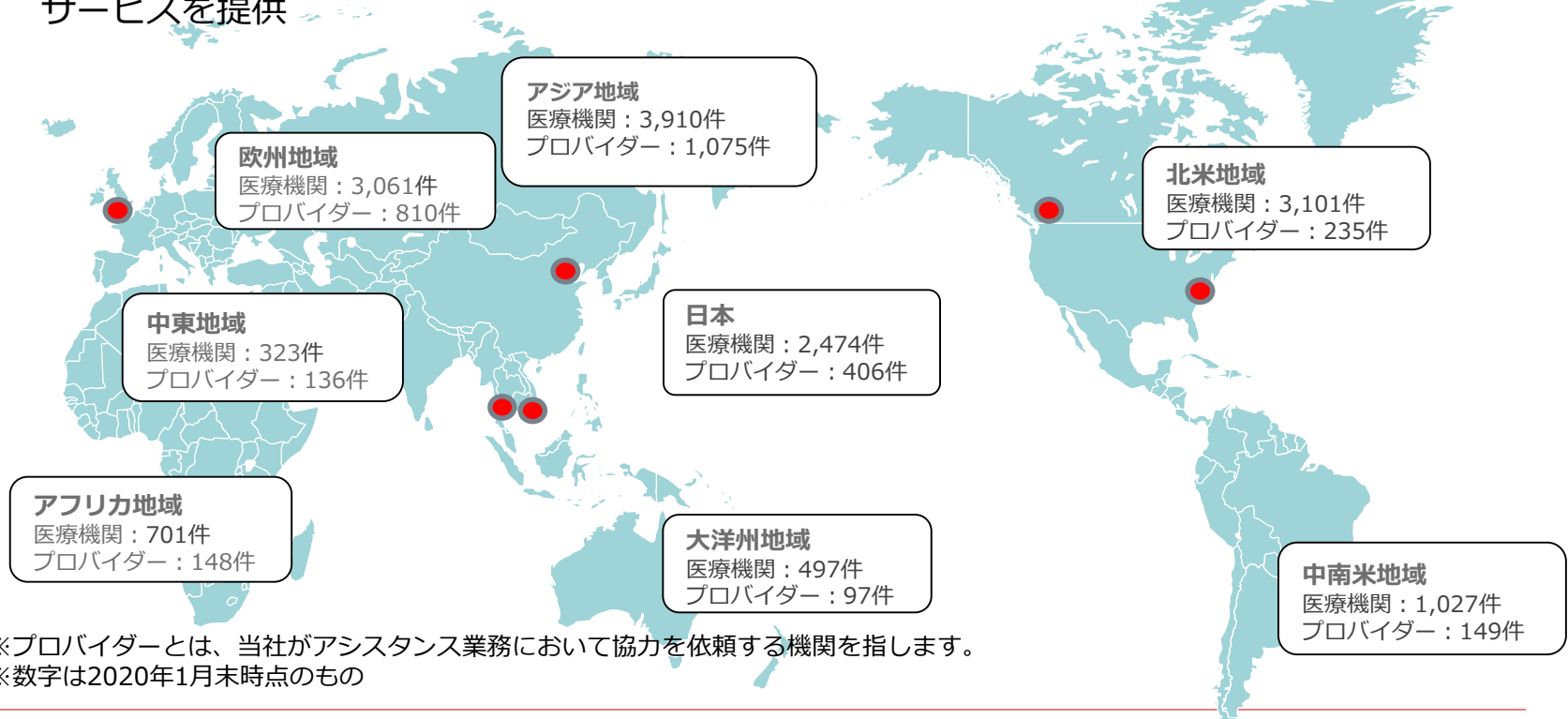
事業

展開する主なサービス概要



E A Jのネットワーク

- 6ヶ国に海外センターを配置（米国、中国、タイ、シンガポール、英国、カナダ）
- カナダセンターは2019年1月に運営開始
- 拠点数は全世界で12カ所、グループ要員数は340名（※非正社員を含む）
- 世界各国で提携関係にある約15,100件の医療機関と約3,000件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



決算業績サマリー

売上高	2,958百万円	(前年同期：)	2,869百万円)
営業利益	93百万円	(前年同期：)	148百万円)
経常利益	93百万円	(前年同期：)	141百万円)
当期純利益	62百万円	(前年同期：)	95百万円)

●売上高は、2,958百万円と前期を3.1%上回った。

- 医療アシスタンス事業の売上高は前年比1.0%増となった。
 - 1) 海外旅行保険の付帯サービスは、海外出国者数の増加を追い風に、前年比売上増となった。
 - 2) 事業法人及び大学向けアシスタンスサービスは、ニーズの高まりを受け堅調に推移した。
 - 3) 外国人患者受入の医療ツーリズムも順調で、前年比売上増となった。
 - 4) 救急救命アシスタンス事業で、2004年以来継続して受注して来た官公庁プロジェクトを落札できなかった。
- ライフアシスタンス事業の売上高は前年比13.0%増となった。

既存顧客への堅実なサービス提供が評価され、既存取引先からの新規業務受託等により、売上高が増加した。

●費用は、今後の事業拡大に備える下記の人員採用等により増加した。

- 1) 1月よりカナダセンターが運営開始した。
- 2) 緊急対応型インバウンド医療アシスタンスの新体制を構築し、10月よりサービス提供を開始した。

●営業利益は、93百万円(前期比36.9%減)となった。

決算および直近のトピックス

- 緊急対応型インバウンド医療アシスタンス業務の拡大に対応する体制を構築
 - 訪日外客数の増加に伴う緊急対応型インバウンド医療アシスタンスへのニーズ増大に備え、多言語対応ができ、かつ医療の専門的な知識・ノウハウとをもつ高度な組織を構築した。
 - 厚生労働省「医療機関における外国人対応に資する夜間・休日ワンストップ窓口事業」を受託し10月より業務を開始したのに続き、大阪府ほか地方自治体より平日昼間のワンストップ窓口業務を受託し業務を開始。引き続き、地方自治体や医療機関との外国人患者受入に関する連携強化を促進します。
- カナダセンターが順調に稼働
 - 1月よりカナダのアシスタンスセンターが営業開始し、海外における医療アシスタンスの高品質サービスを地域的・時間的にシームレスに提供している。今後に見込まれる一層の業務拡大に備える。
- 医療ツーリズムは順調に推移
 - 外国人患者受入の医療ツーリズムは、医療渡航支援企業としてのこれまでの実績と受入医療機関の増加により、売上が増加。特に下期においては過去最高売上を更新する月が続いた。
 - 中国での営業活動とWeChat等SNSによる広告宣伝活動を一層強化している。
- ライフアシスタンスで受注業務拡大
 - 既存顧客への堅実なサービス提供が評価されて新規業務を受託でき、売上高が増加した。

セグメント別業績ハイライト

- 医療アシスタンス事業は、救急救命アシスタンス事業が減収となったものの、それ以外の事業は堅調で、増収となった。一方で費用は、カナダセンターでの人員採用、緊急対応型インバウンド医療アシスタンスのための人材採用・教育研修等により増加した。この結果減益となった。
- ライフアシスタンス事業は、既存取引先からの新規業務受託等により、増収となった。業務量増大に対してコストを抑制し、増益となった。

	前期同期		当期実績	
	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	2,369	462	2,394	364
ライフアシスタンス事業	499	113	564	137
調整額※	-	△426	-	△409
セグメント合計	2,869	148	2,958	93

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している。

(単位：百万円)

2019年12月期 決算連結貸借対照表

- 医療アシスタンスサービス提供の増大に伴い、医療機関に対する立替払いが増加し、借入金が増加した。

(単位：百万円)

	2018期末 (構成比)	2019期末 (構成比)
資産合計	2,277 (100%)	2,647 (100%)
流動資産	1,957 (86%)	2,315 (87%)
固定資産	319 (14%)	331 (13%)
負債合計	1,456 (64%)	1,770 (64%)
流動負債	1,417 (62%)	1,691 (62%)
固定負債	39 (2%)	78 (2%)
純資産合計	820 (36%)	876 (36%)

資産

-サービス提供の増大に伴い、特に立替金の増加があった。

負債

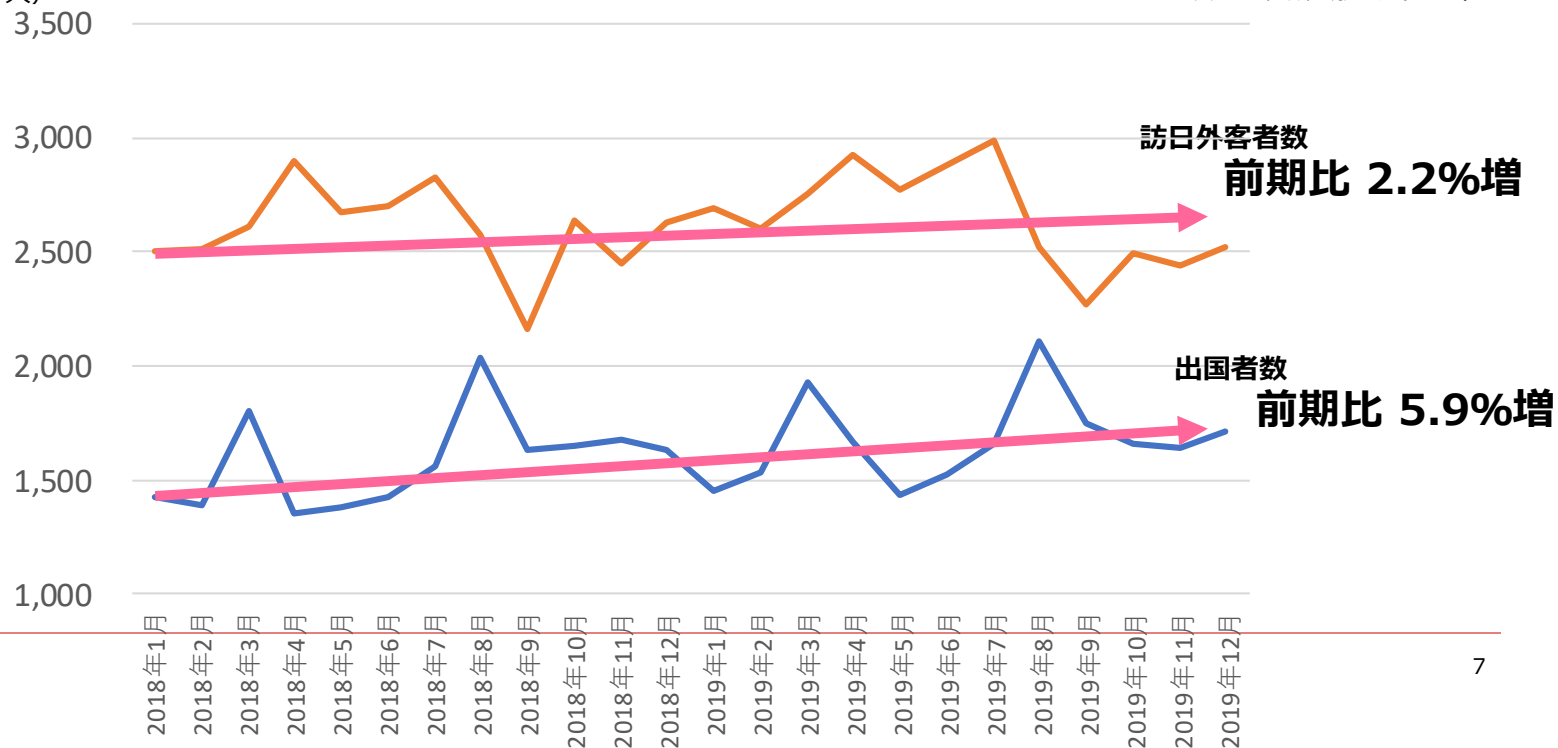
-主に立替金の増加に対応するために借入を行った。

海外出国者・入国者数の推移

- 2019年12月期は海外出国者数・訪日外客数ともに好調で、当社にとって外部環境は良好であった。
 - 海外出国者数は増加し、前期比5.9%増であった。
 - 海外からの訪日外客数の増加も堅調で、前期比2.2%増であった。

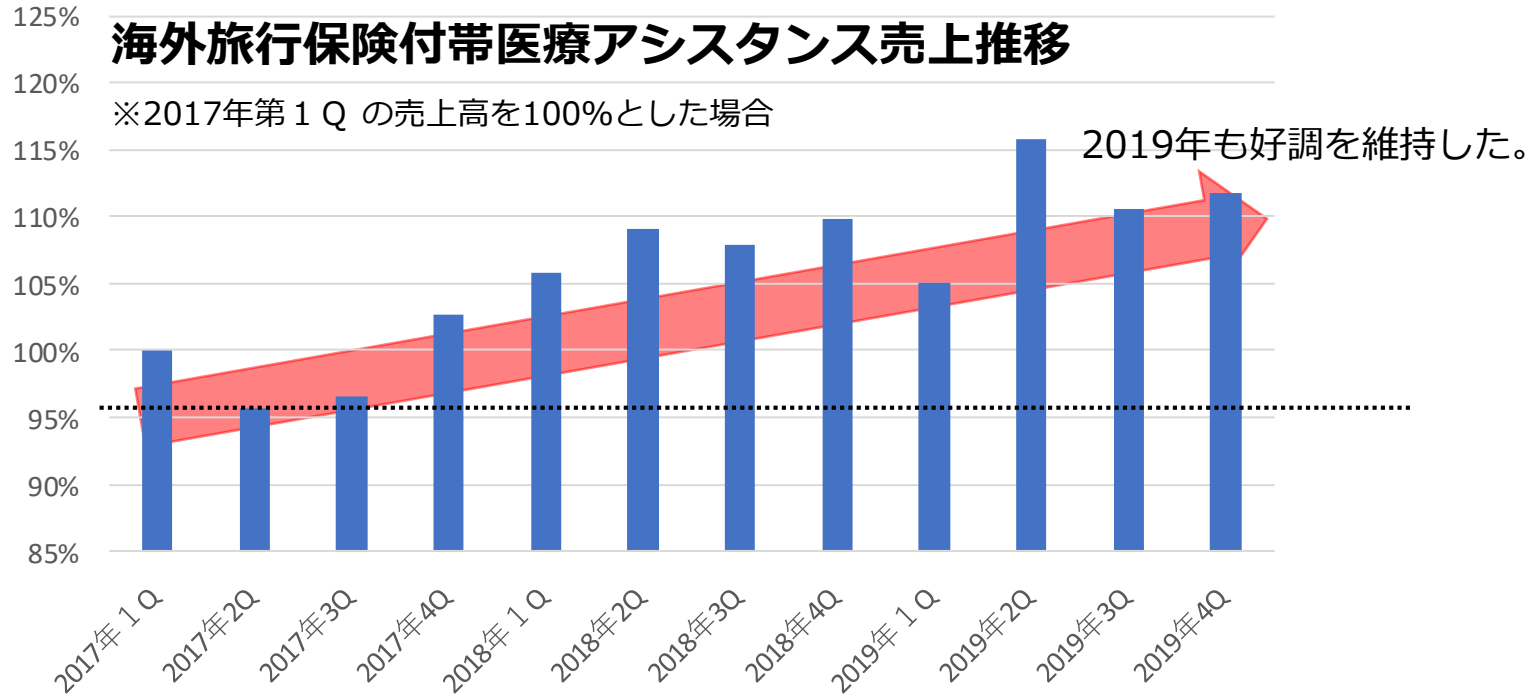
(単位：千人)

出典：日本政府観光局（JNTO）



海外旅行保険付帯サービスは順調に拡大

- 海外旅行保険付帯のアシスタンスサービスは、海外出国者数の増加という好環境にも恵まれて、2019年12月期の売上も好調を維持した。



法人・大学売上は堅調に推移

- 企業の海外進出に伴う安全配慮義務としての海外危機管理ニーズの高まり等により法人・大学向けアシスタンス売上は堅調に推移している。
- 海外拠点（当社の海外センター）に当社社員が駐在していること、有事の際に医師や看護師を手配し、現地から医療搬送ができることも当社の強みである。

OSSMA LOCATOR（留学生危機管理サービス）アプリも好評



報告が完了すると
報告日時が表示される

「現在地の報告と安否確認応答の簡素化」
Eメールに加え、アプリへのプッシュ通知で誘導する
「今ここ」ボタンによっても応答可能となり、現在地の報告と安否応答を手軽に実施できる。

「E A」プロジェクトアシスト」を民間企業に提供

【プロジェクト型 救急救命アシスタンスサービスのイメージ】



「E A」プロジェクトアシスト

救急救命士・看護師が現場プラント、僻地サイトに常駐して現地医療体制を構築し、緊急時の救急対応と健康管理および傷病発生の未然防止を推進するサービス。

セキュリティ・アシスタンスも好調

- 企業の海外進出が加速する中、企業に求められる安全・危機管理対策は重要性を増しており、海外出張者のみならず、現地赴任者についても本社主導による安全配慮義務の履行が必要となっている。
- EAJセキュリティアシスタンスプログラムは、アンビルグループ（※）の基盤を活用してサービスを提供。
- 医療アシスタンスとセットでのご提供により、企業の海外危機管理をより万全にします。

当社のセキュリティ・アシスタンスサービス

- ① 24時間365日の日本語対応のセキュリティホットライン
- ② セキュリティ・リスク情報配信
- ③ セキュリティ専門家によるアドバイス
- ④ 臨時危険情報提供
- ⑤ 暴動、テロ、政変の際の緊急退避（※）
- ⑥ 誘拐対応（※）

※サービス提供には実費と手数料が発生します。

※アンビルグループ

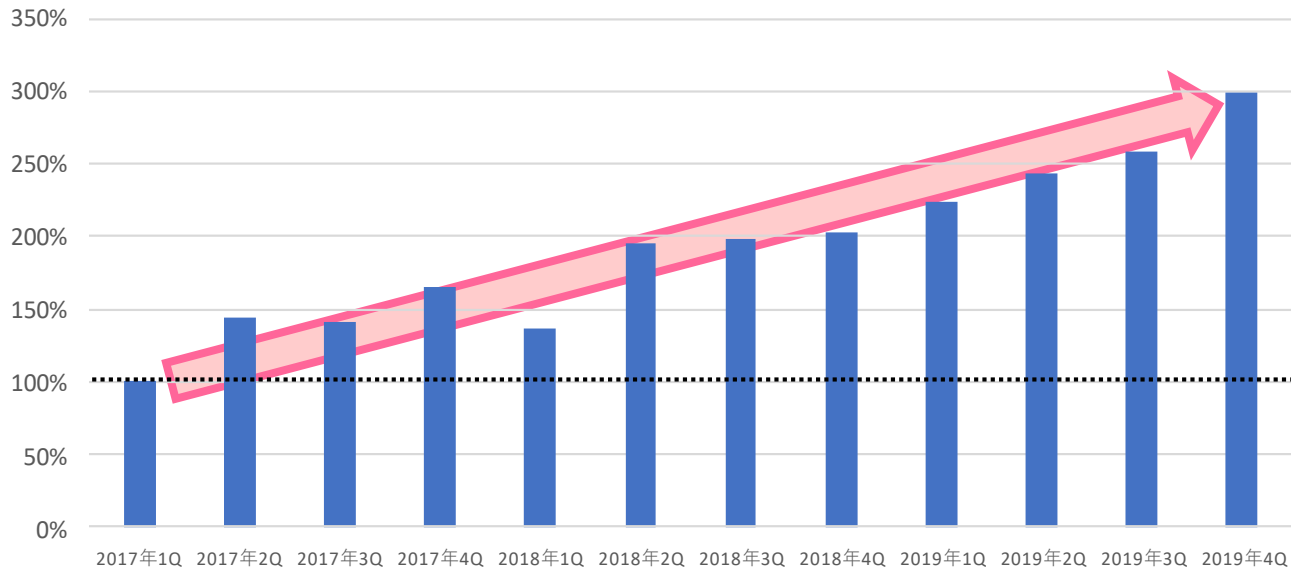
アンビルグループは1988年にカナダで身辺警護サービスの会社として設立され、2006年以降本社をロンドンに移し、英国内務省のSIA（セキュリティ業認証局）の第一号認可を取得するなど経験豊富な緊急退避・移動警護などのフィジカルサービスに加え、2015年英国女王賞に輝くトラッキングサービスやリスクインテリジェンスのITサービスも提供するトラベルセキュリティの総合サービスプロバーダーとして多くの欧米企業を顧客としています。

医療ツーリズムは堅調に推移

- 医療ツーリズム売上は順調に伸長している。
- 受入医療機関との連携関係強化において他社との差別化を図り、問い合わせ数および成約率を伸ばしている。
- 中国オフィスでの営業活動、WeChat等のSNSツールによる広告宣伝も強化中。

医療ツーリズム売上推移

※2017年第1Qの売上高を100%とした場合



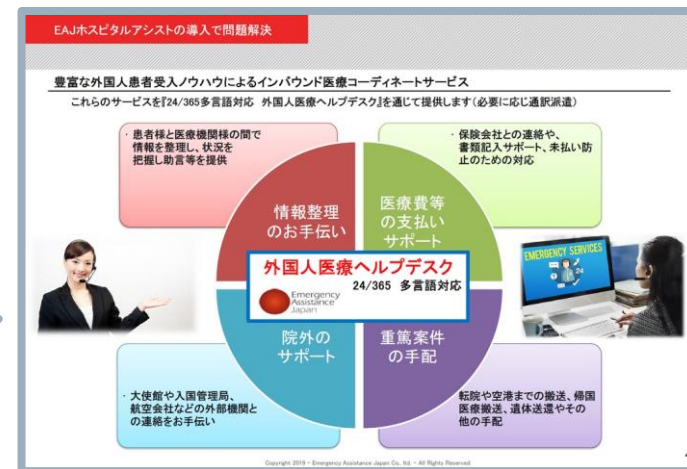
緊急対応型インバウンド医療アシスタンスについて

- 多言語対応の新組織を整備し、訪日・在日外国人がスムーズに診療・治療を受けられる仕組みづくりを開始した。今後はさらに官公庁・地方自治体、保険会社、医療機関等との連携を進め、関連事業の一層の拡大を目指す。
- 2020年は東京オリンピックの開催に伴い訪日外国人の一層の増加が予想され、外国人患者を日本の医療機関に案内するサービスの需要増が想定される。

「EAJ」ホスピタルアシスト

文字通り、医療機関の外国人患者受入の体制づくりをサポート。

外国人医療ヘルプデスクを弊社コールセンターが一手に引き受け、医療コーディネーター、請求事務・回収業務等を行うサービスです。



2020年の業績予想

- 連結売上高 2,900百万円(2019年: 2,869百万円)
連結営業利益 80百万円(2019年: 93百万円)
連結経常利益 80百万円(2019年: 93百万円)

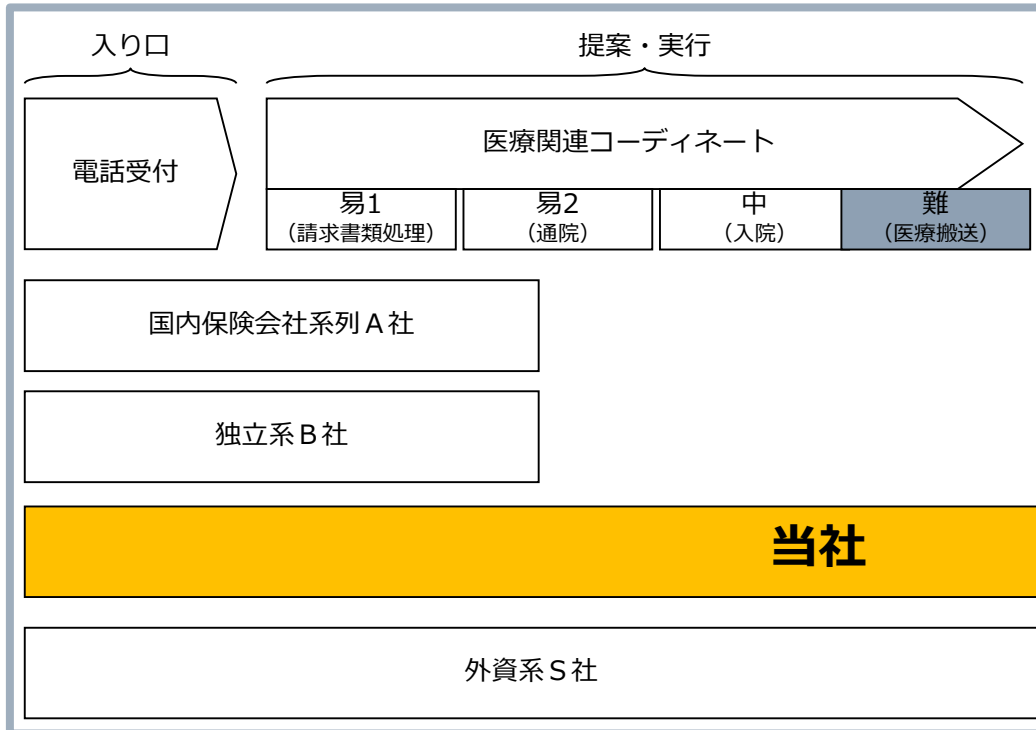
- ビジネスは拡大基調であり、営業を強化し下記の達成を目指す。
 - ✓ アウトバウンド事業売上(海外旅行保険付帯サービス、法人・大学売上)は堅調な伸びを予想。
 - ✓ インバウンド事業売上の一層の拡大を目指す。
 - ✓ ライフアシスタンス事業売上は堅調な伸びを予想。
 - ✓ 救急救命アシスタンス事業への取組みは減少。

- 高収益体質づくりを目指し、積極的な情報化投資を実施する。
 - ✓ 業務効率の向上を目指し、必要なシステム導入等の投資を予定。

当社の医療アシスタンスの事業領域

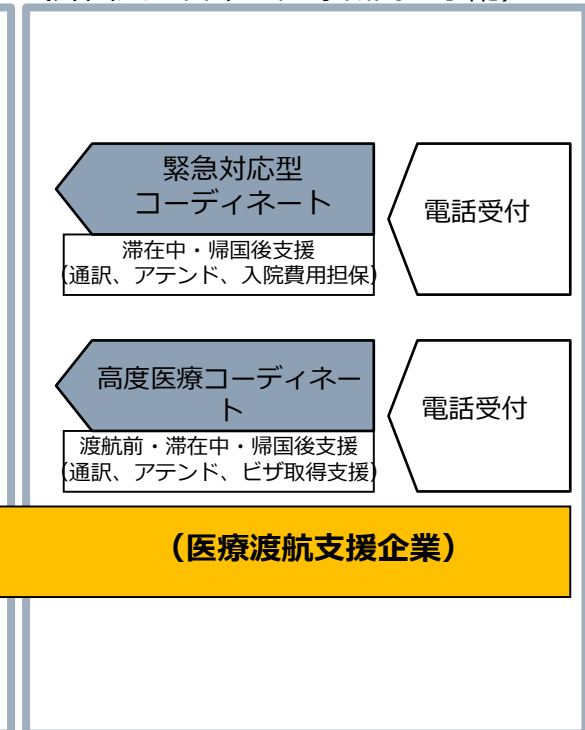
- 当社の医療アシスタンスは、アウトバウンドでは医療搬送などの難易度の高い医療アシスタンスサービスを提供する点、インバウンドサービスにも力を入れている点で他社と大きく異なる。

アウトバウンド (日本人に外国の医療機関を手配)



インバウンド

(外国人に日本の医療機関を手配)



E A J ビジネスの強み

強みの源泉

●サービス品質の高さ

複数の言語を話すことができ、保険と医療に詳しいスタッフによるサービスを提供。医療搬送は日本人顧問医師が判断し、専門の医療チームにより遂行。きめ細かい『ジャパン・クオリティ』を徹底する。

●高い新規参入障壁

新規参入時には、医療機関ネットワーク網の構築と、バイリンガルのコーディネーター等優秀な人材の獲得・教育が必要である。

優位性

●国際医療搬送などの専門性を持ち、医療アシスタンスの全領域をカバー

海外で病気や怪我をした患者様からの電話の受付、医療機関紹介から搬送までをワンストップで実施する会社は日本企業では当社だけである。

●インバウンド（外国人患者受入）事業のリーディングカンパニー

外国人患者受入で業界でも主導的地位を保持し（医療滞在ビザ身元保証機関登録第1号）、医療渡航支援企業に国内で初めて認証される。また、厚生労働省「医療機関における外国人対応に資する夜間・休日ワンストップ窓口事業」の実施事業者に選定され、訪日・在日外国人患者への医療提供のための体制づくりを牽引するポジションにある。

EAJは医療搬送に強みを持つ

- 医療搬送とは
 - 顧客が海外で病気や事故に遭い、現地に適切な治療ができる医療機関がない場合に、近隣国（都市）の医療施設へ緊急医療搬送を行う。
 - 疾病が重症化し、現地の医療機関では治療が困難と判断した場合には、医師・看護師を日本から現地に手配し、民間機あるいはチャータージェット機により患者を日本に帰国搬送して治療する。
 - 医療搬送には入院継続が必要な患者や、航空機内の低酸素・低圧環境が病状を悪化させる疾患の患者に対応する専門的な医療知識が必要となる。
 - 日本人の医師・看護師が医療器材と共に直接現地病院まで迎えに行き、「病院を出発すればすべて日本語」という環境を提供することで患者の思い・ニーズに応える。

国際医療搬送では、**小石川インターナショナルクリニック**と強く連携



※小石川インターナショナルクリニック

医療搬送業務、海外渡航時の予防接種、国内ホテルに宿泊する外国人の往診業務などで幅広く協業を実施。

院長 川合 明彦 (かわい あきひこ)

K I C H P

<http://www.kic.clinic/>



アシスタンスを通じて、お客様が安心して新しい世界へ踏み出していただけるようにする。それがE A Jのミッションです。

「アシスタンスでお客様の世界を広げる」



日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。